得点シーンにおける攻撃戦術についての一考察 —女子サッカーを対象として—

A consideration about the offensive tactics in a score scene -Analysis of women's football-

1K10C476 渡井 汐莉

主査 倉石 平 先生

副査 礒 繁雄 先生

【目的】

本研究は、日本女子サッカーの得点につながったプレーの攻撃戦術を分析することを目的とする。また、大学女子サッカーと日本女子サッカーを比較し、大学女子サッカーとプレナスなでしこリーグの攻撃パターンの違いを明らかにすることを目的とする。

【方法】

地域大学女子サッカー1部リーグに所属する1チームの2013年度リーグ戦の9試合(34得点)と、地域リーグに所属する1チームの2013年度リーグ戦の12試合(38得点)を対象とした。また、2012年度プレナスなでしこリーグの90試合(299得点)を対象とした。本研究では、公益財団法人日本サッカー協会の公式記録の表現に基づき、各攻撃を分類した。各得点シーンに対して、ボール保持者のいた場所をその攻撃の起点とし、サイド攻撃と中央攻撃に分類した。また、一度プレーが中断し、再開されたプレーをセットプレーとした。相手チームのパスミスやドリブルミスを奪い、得点したプレーをミスとした。サイド攻撃は、さらに、アーリークロス、クロス、ブルバック、ドリブル、パス、スルーパスの6つに分類した。一方、中央攻撃は、ドリブル、スルーパス、ロングパス、ロングシュートの4つに分類した。また、セットプレーは、フリーキック、コーナーキック、ペナルティキックの3つに分類した。これらを、プレナスなでしこリーグと大学女子で比較検討する。

【結果】

プレナスなでしこリーグの全試合のシュート数は1894本、そのうち得点は299点、シュート成功率は15.79パーセントであった。一試合あたりのシュート数は、21.04本であった。299得点の攻撃のパターンの割合は、サイド攻撃からの得点が44.00パーセントであった。中央攻撃からの得点が30.00パーセント、フリーキックからの得点が9.00パーセント、コーナーキックからの得点が10.00パーセント、ペナルティキックからの得点が3.00パーセント、ミスによる得点が4.00パーセントであった。サイド攻撃をさらに分類した結果、クロスからの得点が49.23パーセントであった。アーリークロスからの得点が20.77パーセント、ブルバックからの得点が8.46パーセント、パス、スルーパスからの得点がともに7.69パーセント、ドリブルからの得点が6.15パーセントであった。中央攻撃をさらに分類した結果、スルーパスからの得点が43.18パーセント、ロングパスからの得点が35.23パーセント、ドリブルからの得点が

15.91パーセントであった。また、ロングシュートからの得点が5.68パーセントであった。大学女子は、全試合のシュート数が339本、シュート成功数が72得点、シュート成功率は21.24パーセントであった。一試合あたりのシュート数は、16.14本であった。攻撃パターンの割合は、サイド攻撃による得点が49.00パーセントであった。その他の数値は、中央攻撃による得点が22.00パーセント、フリーキックによる得点が8.00パーセント、コーナーキックからの得点が13.00パーセント、ペナルティキックからの得点が4.00パーセント、相手のミスからの得点が4.00パーセントであった。サイド攻撃をさらに細分化した結果、クロスが54.29パーセントであった。アーリークロスが14.29パーセント、パスとスルーパスは同じ数値で11.43パーセントであった。ドリブルが5.71パーセントであり、ブルバックが2.86パーセントであった。中央攻撃をさらに細分化した結果、スルーパスからの得点が50.00パーセントであった。ロングパスからの得点が31.25パーセント、ドリブルからの得点が12.50パーセント、ロングシュートからの得点が6.25パーセントであった。

【考察】

シュート数とシュート成功率の結果から、シュートによる突破の意識が、大学女子よりもプレナスなでしこリーグのほうが高いため、プレナスなでしこリーグのシュート数が多いと考察される。また、パスによる突破や、ドリブルによる突破の意識が、プレナスなでしこリーグよりも大学女子のほうが高いため、大学女子のシュート成功率が高いと考察される。サイド攻撃は、大学女子はプレナスなでしこリーグに比べ、キックの技術の差があるため、アーリークロスの割合に違いがみられたと推察される。また、対象の大学女子は、対戦相手に自陣ゴール近くに引いて守られることが多い。そのため、アーリークロスが可能となるディフェンスの背後のスペースが狭いことが多い。その結果、プレナスなでしこリーグと大学女子のクロスの割合に差がみられたと考察される。中央攻撃は、大学女子は、守備の技術の水準が低いため、攻撃は、ボールの出し手と受け手の2人だけで状況が開けることができると考える。一方、プレナスなでしこリーグは、守備の技術の水準が高いため、ボールの出し手と受け手の2人だけでは状況を打開できず、3人目が関わることで、状況を打開しているとみられた。そのため、大学女子の方が、プレナスなでしこリーグより、スルーパスの割合が高いと考察する。